

講習科目名	【選択】歴史講座	実施期日	8月19日(木)
時間数	6時間(60分×2+90分×2+試験)	講習形態	講義
主な受講対象者	中学校社会科教諭 高等学校地理歴史科教諭	受入人数	30人
担当教員	谷口 満 (文学部教授) : 1時限目担当 (90分) 竹井 英文 (文学部准教授) : 2時限目・3時限目担当 (60分×2コマ分) 渡辺 昭一 (文学部教授) : 4時限目 (90分)		
講習の到達目標 (成績評価の観点)	①教科書の歴史記述について、近年の歴史学界での研究成果を理解し、説明することができる。 ②歴史学の方法論に基づく歴史的な見方・考え方をより深化させ、歴史教育の課題について再認識し、これを説明することができる。		
講習の概要	中学・高等学校の歴史教科書の記述が現在の学界の研究水準からみてどのように評価され、どのような問題点があるのかを、日本史・アジア史・ヨーロッパ史からそれぞれ1人ずつの講師が講義を行う。今回のテーマは、「唐長安城にいたる道—中国都城の平面プラン—」(谷口)、「地域から考える戦国時代」(竹井)、「20世紀的世界史像のとらえ方について」(渡辺)、の3つである。		
講習計画	1時限目 (90分) : 「唐長安城にいたる道—中国都城の平面プラン—」(谷口) 唐の都長安の平面プランを視覚的に提示するとともに、その平面プランの背景にある思想的な意味を解説する。歴史上のことがらについて、その状況とその状況を生み出している理由の双方を正しく理解させるための一つの教材例としたい。 2時限目 (60分) : 「地域から考える戦国時代」(竹井) 私たちが暮らす地域には、教科書で学ぶ事柄と深く関わる史跡が身近にたくさん存在している。そうした身近な史跡を素材とした地域の歴史の学習方法や、そのための有用なツールについて紹介したい。 3時限目 (60分) : 「地域から考える戦国時代」(竹井) 前講を踏まえて、宮城県内の具体的な地域を事例に、戦国時代の地域史について解説したい。それを通して、教科書で学ぶ戦国時代から江戸時代に関する事柄、中世から近世への変化の様子について確認し、授業での活用の一助としたい。 4時限目 (90分) : 「20世紀的世界史像のとらえ方について」(渡辺) かつて「19世紀の世界史像」ということが歴史教科書で大きなテーマとなっていたが、いまや「20世紀の世界史像」を検討することが重要な課題となってきた。欧米中心主義の世界史像から欧米とアジアの関係を重視したグローバルな世界史像へ切り替えるために、いくつかの事例を紹介してみたい。 5時限目 (60分) : 筆記試験		
評価方法	筆記試験を実施して、到達目標の達成度合いによって評価する。		
教材・参考文献	講義当日にプリントを配布する。		

受講者に望むこと	
備考	